



神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
(1989-2022)

CONTENTS

●2023年 理学部移転・平塚図書館閉館

ありがとう！平塚図書館

－開設当時の「平塚図書室」を振り返る－ 2頁

●図書館長からのメッセージ

「図書館の蔵書を充実させる－ふと借りた本から－」

神奈川大学図書館長 松村 敏 6頁

●図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記 8頁

2023年 理学部移転・平塚図書館閉館

ありがとう！平塚図書館

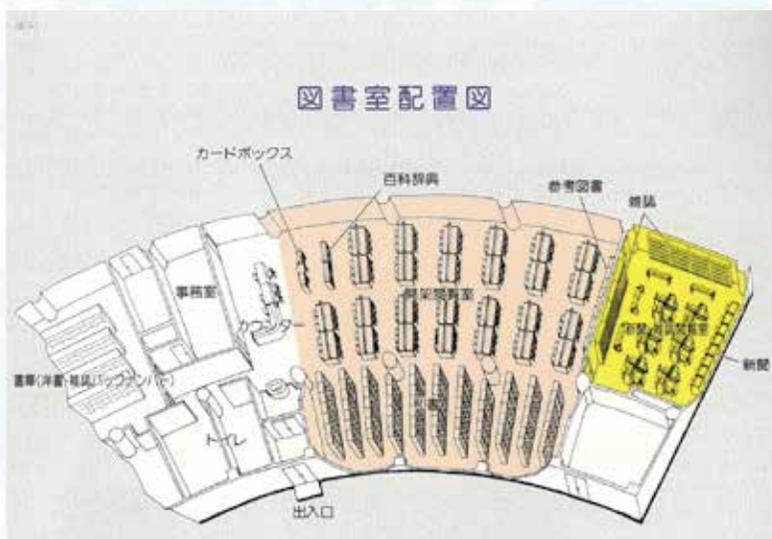
— 開設当時の「平塚図書室」を振り返る —

平塚図書館は、平成元年（1989年）の湘南ひらつかキャンパスの開設とともに「平塚図書室」として設置されました。湘南ひらつかキャンパスの中でも特徴的な半円形の61号館（現1号館）に開室し、横浜キャンパスにある図書館とも一体的に運用されてきました。

その後、2010年には名称を「平塚図書室」から「平塚図書館」に改め、面積も拡張して第2閲覧図書室を増設してリニューアルオープンしました。

2021年には経営学部がみなとみらいキャンパスに移転し、2023年には理学部が横浜キャンパスに移転となるため、平塚図書館としてはその役割を終えます。今号と次号では、1989年から現在まで経営学部・理学部の学生をはじめとした、延べ約580万人の利用者を支えた平塚図書館への感謝を込めて開室当初からの平塚図書館（室）を振り返り、図書館から見る風景なども紹介します。

平塚図書室（1989-2009）配置図



「平塚図書室利用案内」より

開室当時の平塚図書室は、現在の第1閲覧室しかありませんでした。事務室の横に当時の書庫がありましたが、入室できるのは教員のみで学生は入れなかったと聞いています。また、今では図書館の外にあるトイレも開室当初は図書館内にあったことがわかります。

■図書室入口



開室当時の図書館入口は自動ドアではなく手動の扉でした。また入退館の通路は現在と左右反対でした。

■カウンター

開設当時は図書館システムが導入されていなかったため、カウンター内の業務端末や検索用のOPAC（蔵書検索システム）もありませんでした。



紙製の「図書帯出証」



システム対応の「LIBRARY CARD」

1989年の開設当時は、図書を借りる際には紙の「図書帯出証」を使っていました。1991年度からは「LIBRARY CARD」となり、図書館システムで借りられるようになりました。現在は身分証（学生証・教職員証等）で貸出を行っています。

■ 第1開架閲覧室



現在の第一閲覧室



第1閲覧室は現在も開設当時の閲覧机や椅子が使われています。よく見ると壁側の書架には隙間があり、資料数の増加に伴い増設されていきました。また、当初は光沢のある床材が使用されていましたが、騒音対策のため現在はカーペットになっています。

■ 新聞雑誌閲覧室



新聞雑誌閲覧室は当初は個別の閲覧席（キャレル席）が設置されていましたが、利用者や雑誌資料の増加により現在の形に変更されたと思われます。



現在の雑誌新聞閲覧室



■書架（集密含む）



現在も使用している第 1 閲覧室の書架です。右の集密書架は当時の書庫エリアに設置されていたもので、今は第一書庫に移設して利用しています。

■視聴覚閲覧室



新設された視聴覚閲覧室

2000 年から 2009 年まで 61 号館（現 1 号館）の 2 階に第 2 閲覧室として視聴覚閲覧室が設置されていました。2010 年には 1 階図書館に増設されたエリアに新たな「視聴覚閲覧室」として設置され、ブースが満席になることも多くありました。

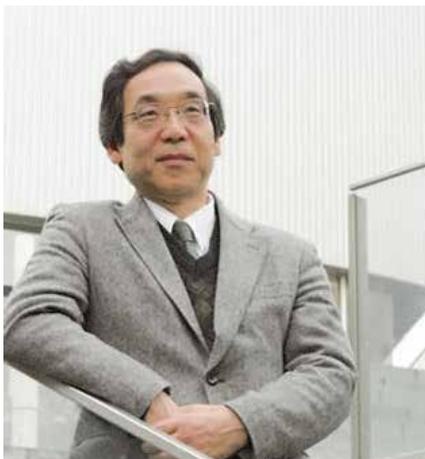
次号では 2010 年以降の平塚図書館の歴史を振り返ります。

図書館長からのメッセージ

図書館の蔵書を充実させる —ふと借りた本から—

神奈川大学図書館長

松村 敏



10 年少し前に、何かのきっかけで、1949（昭和 24）年に国鉄総裁下山定則しもやまさだのりが轢死体で発見された下山事件の真相を描いた柴田哲孝『下山事件 最後の証言』（祥伝社文庫，2007 年）を本図書館から借り出して読んだところ、驚くべき事実に仕事を手につかなくなった思い出がある。

そして最近今度は、ふとしたきっかけで、1948 年に起きた帝銀事件ていぎんに関する佐伯省（ペンネーム）の著書

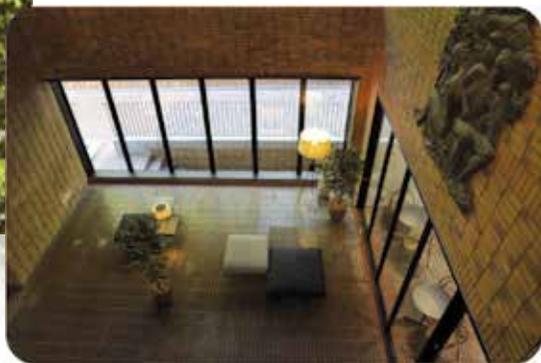
を、本図書館から借りて読み始めたところ、これまた驚愕の内容にしばらく仕事を手につかなくなった。このことをやや興奮気味に図書館カウンターの若手女性職員に話したら、「お仕事で本を読まれているのではないのですか？」といわれ、うっとなったが、実際は自分の研究の一環として、ついでに借り出したのである。それはともかく、カウンターの若手職員らに帝銀事件を知っているかと問うたところ、聞いたこともないという人もいた。無理もない、74 年も前の事件であり、翌年に発生した下山・三鷹・松川事件は高校日本史の教科書にも載っているが、帝銀事件はまったく載っておらず、当然大学入試でも出題されない。

帝銀とは、三井銀行と第一銀行が戦時期に合併して成立した帝国銀行であり、帝銀事件とは、48 年 1 月東京池袋にほど近い同行椎名町支店に閉店直後に現れた男が、行員をうまくだまして毒物を飲ませ、12 人が死亡し、現金・小切手を奪って逃走したという事件である。警視庁はその夏に平沢貞通さだみちという画家を逮捕し、やがて死刑が確定した。しかし歴代の法務大臣は誰も死刑執行許可の書類に印を押さず、平沢は刑の執行も釈放もなされないまま、95 歳で 1987 年に獄中で死去した。歴代法務大臣は冤罪えんざいであることを知っていたからである。

従来私などは、帝銀事件の真犯人は旧陸軍七三一部隊の軍医であった麻薬中毒者であり、麻薬をはたいくひこ買うカネを得るための単独犯という説を信じていた。しかしこの説は、1990 年代に現代史家秦郁彦

氏によって否定されていて、佐伯著では、都内の自宅近くのかかりつけ歯科医こそが真犯人という主張なのである。私はこの説が最も信憑性があると思う。佐伯がこの説を別の著者名で最初に発表したのは、まだ近所に「真犯人」が生きていた時であった。そして私はこのような血沸き肉躍る本が図書館にちゃんと備えられていたことに感銘した。

要するに、教育・研究上直接に必要な本はもちろん、学生・教職員のためになりそうな教養書も収蔵しておくことの重要性を思ったわけである（もっとも柴田著・佐伯著は研究書といえるかもしれない）。最近、研究上参考になりそうな文献を図書館OPACで調べると、所蔵されていないものがかなりあり、研究費が底を突いてきたこともあって（笑）、購入希望を出すことが少なくない。また本図書館でどういふ本を収書するかという「神奈川大学収書方針」が図書館ホームページに掲載されており、そのなかに収書基準として、たとえば「客観性に乏しく学術性が希薄な著作」は原則として収書しないとある。上記の佐伯著で「真犯人」を实名で出せば、名誉棄損で訴えられるばかりか、自分の生命も脅かされることになる（実際「真犯人」に気づかれたらしく、佐伯氏は歯に毒を盛られ殺されかけたという）。このため佐伯著では人名などは仮名が使われ、区名・町名も伏せられており、その結果、架空の話として客観性・学術性のある著作なのか疑問をもつ向きも当然出てくる（もっとも内容から、私が少し調べると、町名や、佐伯氏・「真犯人」の实名まで比較的簡単に判明した）。このような難しい問題もあるが、しかし有用と思われる本は、積極的に収書すべきと感じた次第である。



図書館からのお知らせ

共通

■冬季長期貸出について

対象……学部生
貸出受付期間……2022年12月5日(月)～12月26日(月)
返却期限日……2023年1月12日(木)
冊数……10冊

■春季長期貸出について

対象……学部生(卒年次生)
貸出受付期間……2023年1月23日(月)～3月7日(火)
返却期限日……2023年3月22日(水)
冊数……10冊
対象……学部生(在校生)
貸出受付期間……2023年1月23日(月)～3月24日(金)
返却期限日……2023年4月8日(土)
冊数……10冊

■年末年始の休館日について

2022年12月27日(木)～2023年1月5日(木)

■平塚図書館の閉館スケジュールについて

理学部の移転に伴う資料の移設作業のため、2023年1月の定期試験終了以降、2022年度中に平塚図書館は閉館となる予定です(詳細な日程は未定)。具体的なスケジュールにつきましては、後日、図書館ホームページ等にて改めてお知らせいたします。

※平塚図書館閉館後の図書の返却の取扱いにつきましても、キャンパス内への入構の運用等を踏まえて改めてお知らせいたしますが、横浜図書館又はみなとみらい図書館でも問題なく返却手続きを行うことができます。

編集後記

年末年始は親しい人と集まって外で食事をする機会が増える時期である。お店選びで頼りになるのがネットの情報で、どこにしようかと迷うときは色々な店の料理の写真を見比べて決めることもあるだろう。

図書館の蔵書に全50巻からなる食に関する書籍がある。『聞き書 ○○県の食事:日本の食生活全集(都道府県別)』(○○に県名が入る)である。1980年代刊行のこの本は、大正時代の終わりから昭和初期にかけての47都道府県の食生活について書かれた本である。一冊につき一県、各県ごとにその地域で採れる食材や風習に根差した食文化、人々が日常あるいはお祝いの際に食べていた料理が紹介されている。巻頭には当時実際に作っていた人に再現してもらった料理のカラー写真が掲載されている。この写真がなかなかいい。

どの県の料理も大きな皿に種類だけドンと盛り付けられた飾り気のなさ。ご飯も白米ではなく雑穀飯が大きな茶碗に山盛りで、炭水化物を控えている人が見たら卒倒しそうな量だ。煮付けた魚、ごろっとした芋や大きめに切った菜っ葉、たっぷりの実を入れた味噌汁。地味で見栄えが良いとはいえないが実においしそう。日頃からネットで洗練された料理の写真を見慣れているのに、なぜこんなに素朴な料理がたまたまおいしそうに見えるのだろうか。

かつて日本人は自分達の暮らす土地から受ける自然の恵みを日々の食事で味わっていた。飾り気のない料理の写真はそんな豊かさを伝えてくれる。この本を手にとると、今の君たちの食生活は本当に豊かなのかと、そう問いかけられているような気がする。

(N.E.)

今号の表紙

神奈川大学湘南ひらつかキャンパス(1号館)

1989年(平成元年)に経営学部、理学部が開設された。開設当時は「平塚キャンパス」としていたが2001年に「湘南ひらつかキャンパス」と名称変更した。2021年度経営学部がみなとみらいキャンパスに移転、2023年度には理学部が横浜キャンパスに移転となるため34年の歴史に幕を閉じることになった。写真は平塚図書館がある1号館の外観。

